

モデルのシクラメン、ハリオス® カーリー® シリーズは、ファンタジーで高性能な新世代のフリンジシクラメンです。

そのメリットは、

- ・冬場でもエネルギー消費の少ない栽培プログラムが可能
- ・くるくる渦巻くような特徴ある花は人気が高い

など、栽培にも出荷にも、最大限に活かすことができます。



9 品種, 2 ミックス, 4 プレセリー

2595 ハリオス カーリー® パープルウィズエッジ

株の直径: 24 ~ 50 cm - 鉢の直径: 14 ~ 22 cm

9月 10~11月 12~3月

	栽培期間	種	種	種	種	高温地 (*)		寒冷地	
						出荷	鉢	出荷	鉢
2410	カーリー® スカーレット	36	20	コンパクト	適		14-22		12-17
2450	カーリー® サーマンローズ&フレーム	35	19	ミディアム	適		14-22		14-22
2461	カーリー® ライトピンクウィズレッドアイ	35	19	ミディアム	適		14-22		14-22
2470	カーリー® フクシア	35	19	ミディアム	適		14-22		14-22
2506	カーリー® マゼンタ	35	19	ミディアム	適		14-22		14-22
2525	カーリー® ホワイト	35	19	ミディアム	適		14-22		14-22
2565	カーリー® ライトフクシア&フレーム	35	19	ミディアム	適		14-22		14-22
2595	カーリー® パープルウィズエッジ	37	21	ミディアム	適		14-22		14-22
2570	カーリー® フクシアミックス	36	20	ラージ	適		14-22		14-22
2580	カーリー® 早生ミックス	35 ~ 36	19 ~ 20	ミディアム	適		14-22		14-22
2590	カーリー® ミックス	36 ~ 37	20 ~ 21	ミディアム	適		14-22		14-22

苗: 鉢上げから開花までに必要な期間(週) - 寒冷地栽培: 寒冷地での栽培適応性 (12°C) - (\*) 25°C 以上の気温が4週以上の期間 - 出荷: 最適出荷期間 - 鉢: 鉢の直径(cm)

## カーリー®が魅力的な理由

### 商品揃えに:

- きれいに波打つ大きな花弁は、目を引き付ける
- 鮮やかな花色
- 様々な色が揃っており、単色でもミックスでも選択できる
- パープルウィズエッジ(2595)など、他では得られない色彩

### 栽培面でも:

- 品種間での均一性が非常に高く、栽培計画を立てやすい
- 小葉がきれいに草姿を形作り、コンパクトな株に仕上がる
- 連続開花性が高い
- 花柄の表皮が厚くしっかりしており、株全体の持ち非常に良い

### 驚きのメリット:

寒さに強く、省エネルギー栽培を可能にする優れた性能

冬場、カーリー® は15°C前後の日中平均気温に適します。南欧地域タイプの気温では、最高気温が20°C辺りまで上がれば、最低気温は8~10°C まで下がっても耐用性があります。このような環境下では、相対湿度を80%以下に保つため、換気を良くすることが大切です。

カーリー® の開花には、播種から平均で 35~37週かかります。開花にベストな時期は、温暖地域(南欧タイプの気候)では10月頃から、より涼しい地域(北欧タイプの気候)では9月頃が適しています。

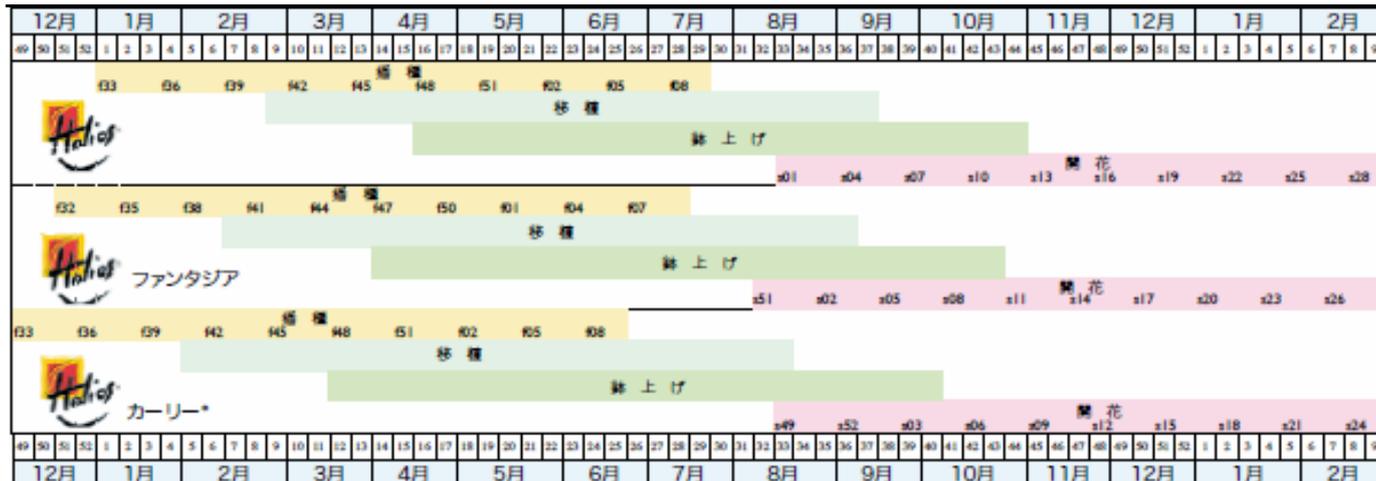
冬場に起こりやすいボトリチスなどの病気にもかかりにくい、カーリー® の強さは注目に値します。

## 上手な栽培のコツ

### 栽培暦

播種から鉢上げの期間は、高温と高い光の放射を出来るだけ避けるような栽培計画をされることをおすすめします。適期に播種しない場合、暑さから株が過度に成長し、花芽の形成を抑えるため、**開花が遅れる**ことが良くあります。

s = 播種 f = 開花



表の見方 (カーリー®): 第45週(11月第1週)に開花させるためには、第9週(2月最終週)に播種が必要です。

### 栽培

鉢上げの時期は、一般的に**真夏の高温期**にあたります。そのため次の点に注意してください：

- 株の成長をコントロールできるよう、過度な蒸散を避ける
- 後の栽培ステージでの栄養素の良い馴化のために、根の発達を強化する

#### そのためには、

- 最高照度は35 000 luxまでに遮光する。日平均気温(ADT)が25°Cを超える場合は、遮光を強め 20-25 000 luxまでに照度を下げる。
- 品種に合ったかん水量で。カーリー®は、水分をあまり必要としない「ストレス」への優れた耐性があります。
- 株の成長をコントロールするために、窒素分を分けて与える(1回のかん水当りのNは25~50 ppm、N/Kバランスは1/3)。

このような管理を行うことで、葉面温度の過度な上昇を抑え、水分要求を通常に保つことが出来ます。株のボリュームも出すぎることなく、コンパクトに仕上がります。

#### ポイント！

根の成長期(夏場)での成長調整剤の利用は、栽培を容易にします。

日が短くなる**冬場の栽培**では、花芽形成を誘導します。

#### そのためには、

- 光の放射を最大限に得られるよう、遮光を弱くする。
- 一回当りの水分量は控えめに、頻繁にかん水する(システム上、頻繁に出来ない場合はかん水回数を半分に減らす)。
- 窒素の量を増やす(1回のかん水当りのNは75~100 ppm、N/Kバランスは1/3)。

#### ポイント！

カーリー® シリーズは、日長時間が短くなる頃の栽培への優れた適応性があります。

#### 大鉢での栽培には (17~22 cm)、

日平均気温(ADT)が15°Cの時期に開花時期が来るよう、栽培プランを立てることを強くおすすめします。花芽の上がりより早く、より多くなります。

#### プレセリー 4 品種

- 2420 - カーリー® スカーレットサーモン試験品種
- 2471 - カーリー® ブライトフクシア試験品種
- 2495 - カーリー® ディープパープル試験品種
- 2507 - カーリー® マゼンタウィズエッジ試験品種